

# 愛知サークル2月特別例会報告

2020年2月16日(日) 名東小学校 参加：8名

今月は、岡山から尾上さん、三重から森川さんが参加して、中身の濃い会となった。

## I 国語実践検討「あいしているから」(1年、3年、3・4年)

1月5日に森川さんと解釈した本教材を、1年、3年、3・4年の3名が共通して取り組み、授業記録と映像を検討した。

- 授業を展開する際のシミュレーションが欠けているのではないか。「変だ。おかしい」の文を特定したら、その言葉について深く解釈する必要がある。一般的な概念で発言できるようなことしか出てこない場合は、「一つ目の矢が当たらなかったら、二つ目の矢を用意」ということができている。教材を具体的に読み、文の中身を深くやるために、具体的に言葉を掘っていく。
- 「そうみたいだね」の「みたいだ」を追求する目的は何か。モール君が飛んでないことをおじいさんが教えたことを理解することだとしたら、例えば、「モール君の帰り道、どんな様子で帰ったか」ということを考えさせることも、場面のつながりを意識して授業をすることになる。
- 「モール君は何のためにとりのひなを連れて帰ったのか。その目的は何か」という問題をつくっていたが、①～③を土俵にしてやっていない。「ペットにするため」が出てきたときには、それは2場面のことだからという理由で切れればよい。この場面は、状況を読み取る必要があるところだから、連れて帰る目的を話し合わない方がよい。作家には意図がある。そのメッセージを読み取る必要がある。

## II 尾上さんによる教師論

あるべき教師の姿、真理の追求、脳科学に基づいた学級論と、熱のこもった講義をしていただいた。そのお話の中で、「自問自答する自分が必要」「自分の分人をもつ」「いろいろなものに感動する心が基盤である」という言葉が心に残った。若い世代の人たちには感動体験をして教育にあこがれをもってもらいたい、この会がそんな場になってほしいと改めて思ったひと時であった。

## III 戸田学級の描画「りんごを割る子」から学ぶ

- 描き手の意図が命。形で見るとではなく、姿で見る。鑑賞眼を養う必要がある。
- 力を込めてリンゴを割ろうとしているポーズ。捉えたものをどのような姿にすればよいか。描いている姿を想像するとよい。子どもが出ているところはどこか。力感を見つける。

## IV 実践検討

- ・3・4年 描画「秋空と植物」
- ・5年 版画多色刷り「大好きな私の学校」・描画「靴」